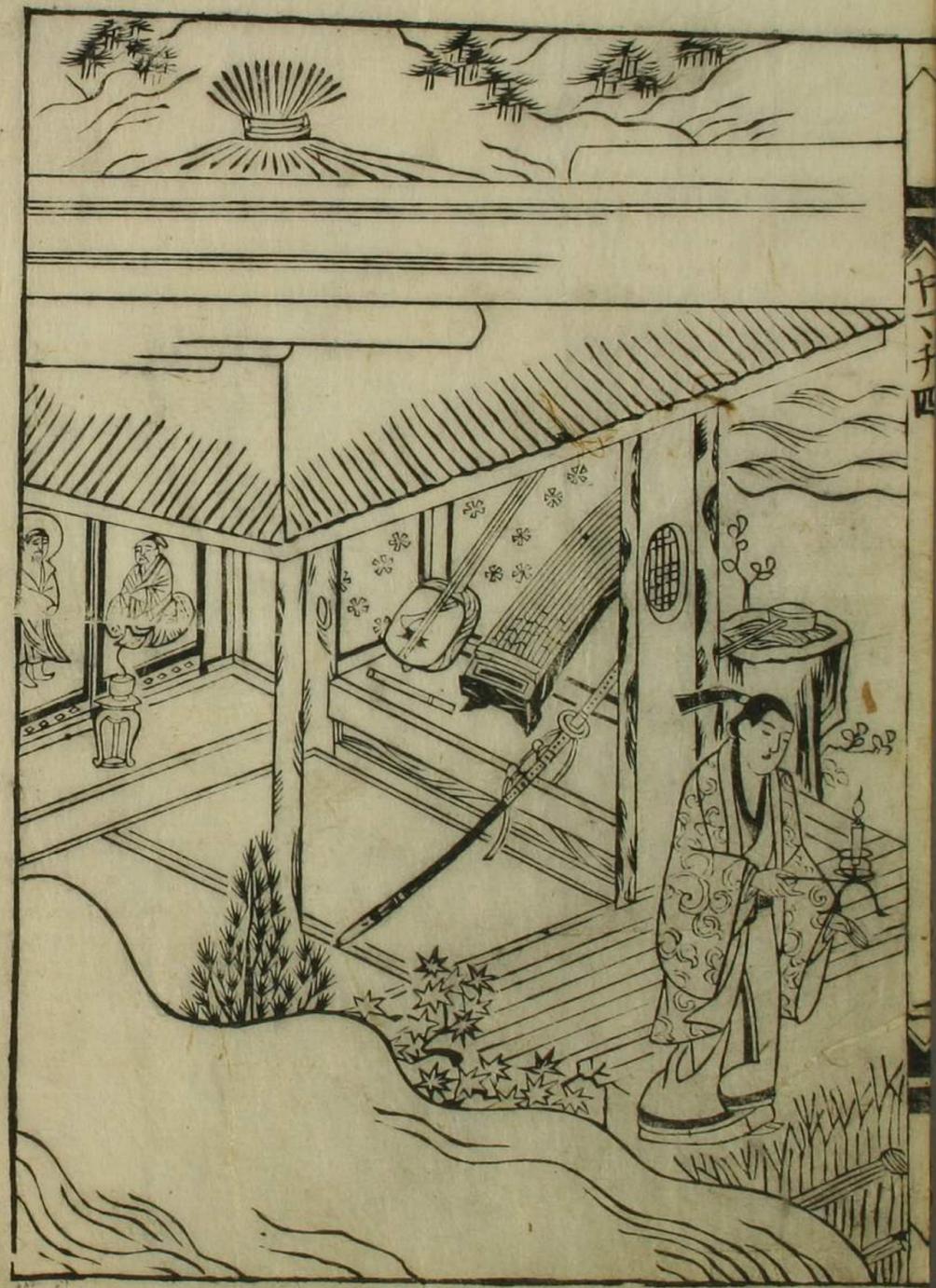


かゝりしうらぶの隈にれど、
かりと縋ひて名をかゝる男、
然る服の敷くまゝに花より、
衣入らむおぼやうど卯の月、
禮と掩ひしを、
表は隠しつゝ又の声ゆびて、
るる林のうらつゝまはせんと、
惚りて志とのぶきを、
の酒の寂寥しつゝまろけく、
うけぬりし今の櫻の、
のふらとまふらぬ、

風流のみ、
おのの細けし、
らしげらるゝ、
がぬの、
ほととの、
ふ月、
子、
一、
枯もや、
月ら、
さびら



恨しきとんけりよ我が又やせり
意なき家世のわまり一こころ
て幸おのゝ死なばこそ方まを
服なぬころひつら放り
かり一枕新こころまど
あひ合ふにむかひの
福ぶありしころを
あはれむ
る修りのち人となりて
あまのこころ
かひり

山路 せん路を
山路 せん路を

